

10年後の東京、

10年後の東京をわたしたちはイメージできるだろうか。

そのとき、わたしたちはなにをまとい、なにを考えているのだろうか。

Existential Wearable = 実存的ウェアラブルというものを提案したい。

Ex = 外へ、is = 存在するもの。すでにあるものではなく、
ここにはないものである（外にある）「実存（existence）」は、
未来的でわたしたちの存在を導くタームだ。

Wearable は未来にどんな形をとるのだろうか。

私たちの存在をアシストし、自由をキープし、
風のように開放的なものであってほしい。

ひとはなにを

学生・社会人混成
ハッカソンチーム代表者

- Heather Barnett (CSM)
- Ulrike Oberlack (CSM)
- Betti Marenko (CSM)
- 野原佳代子
(東工大 プロジェクト代表)
- 津田広志 (東工大)



東京工業大学 × ロンドン芸術大学セントラル・セントマーティンズ校は、上記のコンセプトで、合同でカフェイベントやウェアラブル考案ハッカソンを行ってきました。東京で日本語、英語、アート言語、科学・工学の言語やメソッドが飛び交い、議論、製作が続きました。その発表会をひらきます。わたしたちの「実存」はどんなウェアラブルを発見するのでしょうか。お楽しみに。

着ているか？

Existential Wearableを探して

2018 9.29 sat

〔開催時間〕 **13:00 - 16:30** 開場 12:45
懇親・アートセッション ~18:00

〔場所〕 渋谷ヒカリエ 8/COURT

〔申し込み〕 DEEP MODE 準備室 東京工業大学 環境・社会理工学院 融合理工学系 野原研究室
<http://www.tse.ens.titech.ac.jp/~deepmode/event-application-form/> (先着順)

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京

協賛協力：旭化成株式会社、株式会社 SHINDO

後援：駐日英国大使館

技術協力：東京都立産業技術研究センター、
Autodesk Japan、株式会社 PIVOT